

第61号

発行：令和6年8月

会員数：134名（7月末現在）

（家族会員=12名、個人会員=122名）

発行責任者：田中 恆（ひさし）

編集責任者：出口 孝次

松浦武四郎記念館友の会

友の会だより

友の会事務局：

松阪市小野江町 383

松浦武四郎記念館内



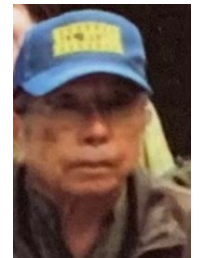
「友の会」のHPは、松阪市HPの中にあります。

観光文化スポーツ → 文化情報・施設 → 松浦武四郎記念館
→ 「松浦武四郎記念館友の会について」で検索してくださいね。

カラーで見ることができますよ。

「宣長と拙堂短歌大会に入賞叶う春の訪れ」 鹿田 登 会員登録 2008/7/13

私は、武四郎記念館友の会が発足してまもなく入会したので、長くお世話になってます。武四郎奉納の神鏡を訪ねる旅に参加するなどしてきました。今回、巻頭言に取り上げていただくことになり感謝しております。それは、武四郎が若いときから大切にしていた和歌を、私も続けて来た結果、二つの賞を頂くことが出来、報告させていただけることになったからです。



老眼鏡 度数あわずと本を閉じ 深夜ラジオのスイッチ入れる

第68回本居宣長顕彰短歌大会「入選」令和5年11月18日(土)選者栗木教子さん

いら早く 津藩の開く 種痘所の 薬師の動き 痘瘡撲滅

第8回齋藤拙堂顕彰吟道大会短歌の部「津市長賞」令和6年3月17日(日)選者三芳公子さん

令和5年度、本居宣長顕彰短歌大会と齋藤拙堂顕彰短歌会に応募しました。特に、齋藤拙堂顕彰会への応募については、武四郎が生きた時代と重なります。

新型コロナウイルス禍、ウイルス拡大・蔓延が長引き、完全終息の目処が見えない中、藤堂藩における齋藤拙堂の業績と天然痘との関わりが目に止まりました。

その昔、世界から日本への広がりを見せた天然痘は、「頭・顔・全身」に発疹が出来て掻がり、死亡に至る疫病でした。

この天然痘の流行感染拡大を止めるため種痘「予防・ワクチン接種」を最も早く施行して、功を奏したのは、緒方春朔(おがたしゅんさく):秋月藩福岡、エドワード・ジェンナー:英国、緒方洪庵(おがたこうあん):大坂・伊勢・鳥羽へ普及影響。等々。

種痘成功の記録が残る予防医学に尽力の薬師(くすし)・医師の歴史を紐解くと、津の立町や久居の旅籠町に種痘所・適塾が開かれ、三雲の中林村、嬉野の権現村に種痘医が居り、身に余る動きが目に浮かんできます。江戸期から明治初期、又、北の果て蝦夷地に於いては、当時の箱館奉行がアイヌ民族への種痘接種施行に対して配慮し、アイヌの人達の協力があって、天然痘撲滅をしたと記されています。

齋藤 拙堂(さいとう せつどう)

幕末の朱子学者。1797年(寛政9年)津藩江戸藩邸に生まれ、1865年9月4日(慶応元年7月15日)死去。諱は正謙、字は有終、通称は徳蔵。号は拙堂・鉄研。1841年(天保12年)、郡奉行に任せられ、地方役人や庄屋の不正を糾した。

弘化元年(1844年)、津藩の藩校「有造館」の督学(校長)となると、学則を改め人材を挙げ、広く書籍を購入し文庫を増設し、『資治通鑑』294巻を刊行した。アヘン戦争後には海外事情についても研究を重ね、時勢の変遷にも敏感に対処した。拙堂自身は一貫した朱子学者であったが、西洋の文物でも優れているものはそれを認めて、和漢洋の折衷によってより良いものにしていくことを唱えた。そのため、有能な藩士を江戸に送り、洋学や西洋兵術を学ばせ、**種痘術の渡来に際しては有造館に種痘館を開き、率先して藩内に施行**した。また、洋式軍制を取り入れるなどの藩政改革にも関わった。



2024 年度総会(報告会)を開催

5月12日(日)の武四郎講座のあとで、今年も完全にコロナ収束では無かった為、報告会を行いました。

会に先立ち来賓としてご出席賜りました竹上市長よりご挨拶をいただきました。お忙しい公務の中、駆けつけていただくことができ、私たちの活動について応援いただいていることに感謝致しております。ありがとうございました。

報告会としては、昨年度の活動報告・会計決算報告・監査報告のあと、役員の紹介(会長 田中 恒・副会長 松浦 壽久・会計 古川 巧・幹事 出口 孝次[友の会誌担当]・幹事 齋藤 和子・柴田 実・粉川 哲夫・齋藤 猛夫)(監事 飯田 嘉之・倉田 高雄・顧問 山本 命・飯田 秀)をして昨年に引き続き運営に当たらせていただくことを報告しました。そして、今年度の活動内容について予定ではあるが日程が決まっていることもあり、次のように報告しました。

4月 友の会だより発行 5月 12日(日)令和6年度総会(報告会) エゾヤマザクラの消毒施肥

6月 三雲ほっとギャラリーで友の会活動展示 12日(水) 擬革紙実演会(小物入れ作り)

8月 7日(水)～まつさかの偉人たち展を文化財センターにて～11日(日)まで、ギャラリートークは10日・11日
友の会だより発行 9月 2日(月) バスツアー「松浦武四郎の神鏡を訪ねる旅」須磨天満宮・休天満宮・明石海峡大橋
11月 バスツアー伊勢方面(予定) 12月 友の会だより発行 2月 25日 武四郎まつり参加(毎月 友の会役員会開催)

令和6年度予算は、繰越金 37,859円 年会費 67,000円 雑収入他2,000円 収入合計 106,859円
支出 事務費・通信費・樹木管理費・講師評・他合計 106,859円 特別会計繰越金 24,287円です。



武四郎が愛した煙草入れと同じ

擬革紙体験に行ってきました！



6月12日(水)午前9時、記念館に集合した五人が二台の車で出発、参宮ブランド擬革紙の会の作業所へ。別の車で来た二人と合流し、七人での参加でした。スタッフの方四人に指導してもらいながら「擬革紙の作り方体験」とその紙を使つての「小物入れ作り体験」をさせていただきました。午前10時から二組に分かれての作業で、のんびりしながらも、結構なハードワークでした。

本来の作業工程を全て体験するにはとんでもない時間と労力が必要とのことで、一番おいしいところだけを1時間半くらいで出来るようなワークショップにしてもらい、名刺入れにもできるくらいの大きさの小物入れを製作しました。

まず、行うのは、和紙を染めてしわが出来ているのを用意してもらってあるので、好みの色を選びます。最終的なできあがりを想像しながら、何を入れようかなと考えて、チョイスしました。

それを、三人から四人のグループで、さらにしわを四回付けます。その為の台紙の間に挟んで斜めのしわにしたり、縦のしわにしたりするのですが、しっかり棒にくつつくようにする為、足でふんで転がさなくてはなりません。これが、重労働、四人で交代したから何とか出来ましたが、一人だったら音をあげていたでしょう。

これを乗り越えたら、圧縮機で思いっきり締めてしわが出来るわけです。

そのしわしわの紙を型どおりに切って、周りなどをのり付けし破れにくくしておいて、ボタンになる金具を専用のポンチでしっかり止めれば完成です。

それぞれに個性がある作品が出来上がっていききました。

私は、最初にイメージした「名刺入れ」にするため、一般的な工程とは少し違ったので、アドバイスして頂きながら、何とか完成させました。世界に一つだけの擬革紙の名刺入れ、いかがでしょうか。



三雲ほっとギャラリーに展示！

6月3日（月）から6月28日（金）までの1ヶ月間、三雲振興局の玄関にあるほっとギャラリーにおいて、毎年恒例にしている松浦武四郎記念館友の会活動展示を行いました。

ご覧頂きました皆様、ありがとうございました。

そこに、初めて友の会だよりのカラー版を展示しました。

元々、友の会だよりは、総天然色で作成しています。したがって、それを見て頂くことが出来るようにしなくてはと、ホームページを作ってもらってあるのです。ところが、なかなか見て頂きにくいようです。

友の会だよりのトップページには、毎回ホームページの入り方をのせているのですが、ご存じでしたでしょうか。ここに、PDFファイルを登録しています。ぜひ最新版をカラーでご覧になってください。スマートフォンでもご覧いただけますよ。



【記念館からのお知らせ】

☆開館30年記念トーク(午前10時から11時半ごろまで開催)

- 8月11日 開館30年記念トーク②「開館から30年の歩み」
ゲスト:佐々木 利和さん(北海道大学名誉教授)
高瀬 英雄さん(松浦武四郎記念館 元館長)
- 9月 8日 開館30年記念トーク③「記念館のこれから」
パネリスト:松浦武四郎記念館 若手職員

無料開館のお知らせ

☆11月16日(土)・17日(日) 関西文化の日
ぜひお越しください。

☆武四郎講座など(原則毎月第2日曜日の午前10時から11時ごろまで開催)

- 10月13日 「武四郎とめぐる史跡名勝」 講師:佐藤 圭祐
- 11月10日 「旧三雲町の妻入町屋 ― 武四郎が見た参宮街道のまちなみ ―」
講師:倉田 英司さん(四日市大学 総合政策学部 特任准教授)
- 12月 8日 「武四郎の顕彰」 講師:世古 詩央里

☆企画展示のご案内

- 7月26日(金)～ 9月29日(日) 「武四郎の晩年」
- 10月 4日(金)～11月24日(日) 「武四郎と絵図・地図」
- 11月29日(金)～ 1月19日(日) 「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク協働展示」

【友の会よりのお知らせ】

「松阪の偉人たち展」

2024年8月7日(水) 9:30～11日(日) 16:30 (最終日は15:00)

場所:文化財センター第1から第3ギャラリー



「12月までの行事!」ご案内

バスツアー「武四郎奉納の神鏡を訪ねる旅 2024」

日時:9月2日(月)朝7:30記念館出発

場所:兵庫県神戸市須磨「網敷天満宮」・明石市「休天満宮」・明石海峡大橋

参加費 9,000円～9,500円

※定員40人(申し込み締め切り日は過ぎていますが、空きがあるかもしれません)

バスツアー伊勢方面の旅

2024年11月ごろ 場所:コロナ禍で中止していたので詳しくは未定です。



会費納入のお願い

令和6年度の年会費を、納付いただきますよう
ようお願いいたします。今後、口座振込みを
ご希望の方は、記念館事務局
0598-56-6847へお問い合わせください。



次回の発行
は、12月の予
定です。